

## 「IRに関するワーキンググループ」答申

### 1. IRに関するワーキンググループの設置並びに審議の経過

本ワーキンググループは、2011年3月18日（金）に開催された2010年度第3回全学自己点検・評価委員会において、設置が承認された。全学自己点検・評価委員会の運営を担う、「企画調査室」の中に本ワーキンググループが置かれることとなった。<sup>1</sup>創価大学におけるIR機能の設置検討を目的として、主な任務として以下の7点が与えられた。

- (1) 本学におけるIR設置目的（射程）、位置づけ等の検討
- (2) 各部局の既存諸データの把握と今後必要なデータの割り出し
- (3) 学習成果に関するデータの把握
- (4) 認証評価に必要な諸データの割り出し
- (5) 新たな全学としての集積データ項目の決定
- (6) 上記(1)～(5)のデータの分析と政策提示
- (7) 上記(1)～(6)を遂行するうえでの、各部局との連携

本ワーキンググループは、本学におけるIRの課題に対応するために、教職員から幅広く委員を募り、上記主任務の達成を目指し、計6回の会議、ワーキンググループ内のプロジェクトチームによる試験的な分析調査、他大学の事例調査などを実施してきた。<sup>2</sup>2012年3月開催された2011年度第3回全学自己点検・評価委員会に、中間報告がなされた。<sup>3</sup>また、昨年の活動をもとに、本年は集積データ項目の決定と本学におけるIR機能を担う組織の問題について審議を重ねた。2年間の活動の成果を踏まえ、以下のとおり答申する。

### 2. 答申

#### (1) 本学におけるIR設置目的（射程）、位置づけ等の検討

IR (Institutional Research) とは、「機関研究」もしくは「機関調査」とも訳される言葉で、これまでに普遍的に受容された定義は存在しない。アメリカの学者によるいくつかのIRの定義、一般的なIRの定義・役割を確認した上で、IRを「大学の理解、戦略、運営の改善につながる研究」（アメリカIR全国協会の定義）と捉えて、議論を進めた。

先ず、先進的な国内外の事例を学んで、本学におけるIRのあり方について種々検討を重ねた。早くからIRが根付いている米国の大学においても、その役割は多様である。IRを名乗る部門を設置し、活発に活動を展開しているように見える国内の大学においても、その大学内における立ち位置が定まっていないところが多い。部門の設置や人員の配置、設備投資をすることで必ずしも有効に機能するわけではない。

本学におけるIRの主たる目的を策定し、その目的を達成するための組織とその役割・権限を定める必要があるとの認識で一致した。本学においては、IRについてははじめから幅広い教育研究情報を扱うのではなく、当面はこれまで蓄積してきた学生データ（串刺しデータ）を発展させ、教育活動の改善

<sup>1</sup> 詳細については、自己点検・評価委員会で承認された審議資料（参考資料1）を参照のこと。

<sup>2</sup> 本ワーキンググループの審議の経過については、参考資料2を参照のこと。

<sup>3</sup> 中間報告は参考資料3を参照のこと。

に活用していくべきである。よって、本学の I R は、本学教育の質の保証と向上を目的とし、学生の入口から出口まで（入学から卒業まで）の教育・学習情報の収集と分析をその役割として、2013 年度からの I R 活動をスタートさせることが望ましい。

(2) 各部署の既存諸データの把握と今後必要なデータの割り出し

事務局各部協力のもと、①各種調査報告用の帳票一覧、②既存システム内の出力可能帳票一覧、③帳票にはなっていないが、各部独自で定期的に収集保管している情報の一覧、を提出してもらい、既存諸データの把握を行った。その上で、今後必要なデータとして、資料 1 のように今後集積すべきデータ項目を抽出した。

(3) 学習成果に関するデータ把握

先に策定された共通科目のラーニング・アウトカムズに続き、各学部のラーニング・アウトカムズが 2012 年 3 月に策定された。これらにもとづき、何をもって学習成果を評価するか、各学部において検討されている。現状の共通科目と各学部等のラーニング・アウトカムズを考えると、資料 1 の集積データ項目によりその評価のためのデータほぼ網羅されると考える。

(4) 認証評価に必要な諸データの割り出し

上記主任務②で把握した既存諸データを活用し、どのように認証評価に備えるか検討した。認証評価機関から提出を義務化されている「大学基礎データ」以外で、本学の教育・研究活動の質を改善するためのデータとその分析について、プロジェクトチームで試行的に調査した。現段階で一度に多くの分析をするのは困難なため、I R という組織がデータを活用して何ができるのかという観点から、以下の点について試行的な分析を実施した。

- ① 授業アンケート質問項目間の相関および G P A との関連
- ② 留学状況
- ③ 学習活力調査の集計・分析
- ④ 保護者教育相談会の集計結果
- ⑤ 就業力アンケート
- ⑥ 成績不振学生の特徴把握

これらの試行的な分析により、現状のデータの把握状況、分析する上での問題点や新たに収集すべきデータなどについて、検討を加えた。その結果、評価・分析に必要な情報在今后集積すべきデータ項目（資料 1）に追加した。

(5) 新たな全学としての集積データ項目の決定

主任務②～④を踏まえ、資料 1 の通り集積データ項目を決定した。

(6) 上記②～⑤のデータの分析と政策提示

(7) 上記①～⑥を遂行するうえでの、各部局との連携

(1)で述べたように、現時点において、本学教育の質の保証と向上を本学のIRの目的として、学生の入口から出口まで（入学から卒業まで）の教育・学習情報の収集と分析をその役割として、本学のIR活動を開始することが望ましい。このIR活動を推進するために、仮称「IR室」を設置することを提案する。

「IR室」の構成は、室長に部局長クラスの担当教員を置き、室員として教員若干名と関係部課の職員を配置する。教員は、学士課程教育機構関係者とし、職員は、学士課程教育機構事務室、情報システム部、入試事務室、学生部、教務部及びキャリアセンターのメンバーが兼務する。室長のもとIRに関する事務は、学士課程教育機構事務室が所管する。またこのIRのためのデータベースの構築に関しては、情報システム部が、IR室の方針に基づきデータの収集とデータベースの管理を行う。

なお、現在グローバル人材育成推進事業において、データベースの構築、Business Intelligence（BI）システムの構築に関する補助金の申請が行われており、これをIR活動の先行モデルとして位置付けることを検討していくこととしたい。

以上

## 資料 1

## 学生データ集積項目

分析データ項目 (在学生)		分析データ項目 (在学生)	
学籍情報		成績情報	
1	学籍番号	19	通算 GPA
2	学年	20	セメスタ別 GPA
3	学部	21	総修得単位数累計
4	学科	22	セメスタ別総履修単位数
5	氏名	23	セメスタ別総修得単位数
6	性別	24	特設課程登録状況
7	生年月日	25	プレイスメントテストスコア (国語)
8	在籍状況 (在籍・休学・失籍)	26	プレイスメントテストスコア (数学)
9	休学理由	27	ITP 合計(1 回目)
入学情報		28	ITP 合計(最高)
10	入学年度	29	ITP 合計(2 回目以降)
11	入試区分	30	TOEIC 合計(1 回目)
12	入試区分名	31	TOEIC 合計(最高)
13	推薦区分	32	TOEIC 合計(2 回目以降)
14	編入区分	33	各種語学試験スコア
15	受験番号	34	就業力テストスコア
16	出身高校コード	35	SPI スコア (最高)
17	出身高校名	36	シュリーマン賞
18	高校卒業種別 (現役・1 浪など)	37	ダ・ヴィンチ賞
その他情報			
38	所属クラブ名	45	進路
39	学生自治会所属	46	特奨生区分
40	クラブ部長・寮長	47	特待生情報 (セメスターごと)
41	住居区分 (寮・自宅・アパート)	48	奨学金受給状況 (種類・金額)
42	入寮名	49	図書館入館回数
43	国籍	50	図書館貸出冊数
44	留学経験 (海外ボランティア、インターンシップ等も含む)		

## 参考資料 1

### 「IRに関するワーキンググループ」設置の件

企画調査室

現今、大学教育における学習成果（ラーニングアウトカムズ）把握の重要性が求められ始めています。また、より実質的な大学評価も視野に入れ、IR（Institutional Research）への取り組みが大きな流れとなりつつあるなかで、本学の実情を数値的に把握するとともに、それらを分析し、そこから新たな政策立案に結びつけるという、機関としてのIR機能創出が急務の課題となっています。

つきましては、以下のとおり、全学自己点検・評価委員会の運営を担う「企画調査室」の中に、「IRに関するワーキンググループ」を設置し、同機能創出への検討を始めてまいります。

目 的	創価大学におけるIR機能の設置検討
名 称	「IRに関するワーキンググループ」
設 置	2011年4月1日
配 置	全学自己点検・評価委員会内・企画調査室に設置する。 座長・委員 （座長）馬場副学長（副座長）池田教務部長* 秋谷大学事務局長 （委員）関田教授（教育） 浅井教授（経済） 北野教授（工） 清水准教授（機構）松岡課長（教務） 澤登課長（教務） 杉本係長（情報）赤石澤主任（学事※事務取扱） 岩城（学生）三浦（入試）平沢（キャリア）
任 期	2年（2012年度末までに答申を提示する）
主 任 務	①本学におけるIR設置目的（射程）、位置づけ等の検討 ※本学IRの定義、セクション、スタッフ、配置、意思決定ルート等 ②各部局（各学部や事務局など）の既存諸データの把握と今後必要なデータの割り出し ③学習成果に関するデータの把握 ④認証評価に必要な諸データの割り出し ※第2期認証評価における証拠データは各大学が任意に提示する。 ⑤新たな全学としての集積データ項目の決定 ※例：卒業生調査、卒業生受入企業調査… ⑥上記②～⑤のデータの分析と政策提示 ⑦上記①～⑥を遂行するうえでの、各部局との連携

\*副座長は2012年4月よりの池田教務部長から田中教務部長に交代。

## 参考資料2

### I R ワーキンググループ審議の経過

#### 第1回

日時：平成23年4月4日（月） 15：00～

場所：A棟1階第1会議室

#### 議題

- 一、ワーキンググループについて
- 一、I Rについて（一般的な定義・役割など）
- 一、任期中の主な予定（工程）について
- 一、本学のこれまでの取り組みについて
  - 1) 共通科目ラーニングアウトカム
  - 2) 串刺し学生データの収集
  - 3) 学生アンケート
- 一、アンケート調査サブグループの設置について
- 一、その他

#### 第2回

日時：平成23年7月11日（月） 14：40～

場所：A棟1階第2会議室

- 一、関西学院大学I R視察報告
- 一、各課からの収集データについて
- 一、経年収集大学基礎データの見直しについて
- 一、最新の串刺しデータについて
- 一、参考資料：世界の大学改革にみられる普遍性と共通性  
「カレッジマネジメント」169号 2011年7月発行より
- 一、その他

#### 第3回

日時：平成23年9月20日（火） 15：00～

場所：A棟1階第1会議室

- 一、今後の方向性について（活動方針案）
- 一、4大学I Rネットワークのシステムについて
- 一、大学評価担当者集会（9/15-16）報告
- 一、その他

#### 第4回

日時：平成23年12月13日（火） 16：30～

場所：A棟1階第1会議室

- 一、今後の学生アンケート調査の在り方について
- 一、IRデータの分析結果について
- 一、その他

#### 第5回

日時：平成24年10月2日（火） 15：00～

場所：A棟1階第1会議室

- 一、年度末の最終答申に向けて
- 一、IRに関連する「グローバル人材」申請内容について
- 一、その他

#### 第6回

日時：平成24年10月30日（火） 15：00～

場所：A棟1階第1会議室

- 一、学生データの集積項目案について
- 一、IRの事務主管について
- 一、その他